慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	関根政美略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2016
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.81 (2016.) ,p.126- 136
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2016年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000081-0126

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

・中野卓『鰤網の村の四〇〇年―能登灘浦の社会学的研究―』『シティズンシップと再生する地域社会 地域社会学会年報第10集』187–188頁，ハーベスト社，1998年5月
・「書評リプライ：意味の重層性と現代都市文化」『日本都市社会学会年報』第18号，園部雅久「書評：有末賢『現代大都市の重層的構造』」129–134頁，2000年7月
・松田素二『抵抗する都市―ナイロビ移民の世界から―』『市民と地域―自己決定・協働，その主体―地域社会学会年報第13集』235–6頁，ハーベスト社，2001年5月
・中川清『日本都市の生活変動』『三田学会雑誌』第94巻第3号，183–186頁，慶應義塾経済学会，2001年10月
・中野紀和『小倉祇園太鼓の都市人類学―記憶・場所・身体―』『三田社会学』第14号，129–132頁，2009年7月
・田中重好『地域から生まれる公共性―公共性と共同性の交点―』『三田社会学』第16号，124–127頁，2011年7月
・橋本和孝『地域社会研究と社会学者群像―社会学としての闘争論の伝統―』『地域社会学会年報』第25集，189–190頁，2013年5月
・「書評リプライ：ドキュメントとストーリー――水野節夫氏の拙著書評に寄せて―」水野節夫「有末賢『生活史宣言』を読む」『三田社会学』第18号，146–150頁，2013年7月

関根政美（せきね まさみ）

1951（昭和26）年1月26日生まれ（65歳）

〈教育歴〉
1970年4月　慶應義塾大学法学部政治学科入学
1974年3月　慶應義塾大学法学部政治学科卒業
1974年4月　慶應義塾大学法学研究科政治学専攻修士課程入学
1976年3月　慶應義塾大学法学研究科政治学専攻修士課程修了
1976年4月　慶應義塾大学社会学研究科博士課程入学
1979年3月　慶應義塾大学社会学研究科博士課程単位取得退学
1989年3月　社会学博士（慶應義塾大学）取得（社会学研究科）

〈職歴〉
1979年 4月～1983年3月　慶應義塾大学法学部専任講師（産業社会論・社会学・社会変動論担当）
1980年 7月～1983年3月　オーストラリア，ニューサウスウェールズ州立大学経済・商業学部訪問研究員（組織行動学科所属）
1984年 4月～1989年3月　慶應義塾大学法学部助教授
1984年 4月　研究会・現代オーストラリア社会論担当（政治学科専門科目）
1985年10月～1989年9月　大学国際センター学習指導主任

1985年10月～1989年9月　大学学生部委員（三田支部）
1989年 4月～2016年3月　慶應義塾大学法学部教授
1989年 7月～1991年8月　駐豪日本大使館（キャンベラ）専門調査員（政務担当）
1990年 4月～2016年3月　大学院法学研究科委員
1991年10月～1995年9月　大学院法学研究科学習指導委員
1992年 4月～2016年3月　大学院社会学研究科委員
1993年10月～1999年9月　大学法学部長補佐
1993年10月～1997年3月　慶應義塾大学新聞研究所所長
1997年 4月～2007年9月　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所（旧新聞研究所）所長）
2003年 4月～2008年3月　21COECCC研究・教育拠点事業推進委員
2008年 4月～2013年3月　グローバルCOE教育・研究拠点事業推進委員
その他，常任委員，人事委員，入試委員，カリキュラム検討委員会委員（委員・委員長），図書委員，法学政治学論及編集委員，政治学専攻ジャーナリズム・コース設立検討委員会，学部教育諮問委員会政治学専攻新コース設立検討委員会，福沢基金運営委員会，福澤賞・義塾賞選考準備委員会，小泉信三記念講座運営委員会，慶應義塾学術出版基金審査委員，三田評論編集委員
非常勤講師等：青山学院大学女子短期大学，カリタス女子短期大学，東京大学法学部（本郷），東京大学教養部（駒場キャンパス），駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部などで非常勤講師担当，国立国家図書館特別研究員，民族学博物館共同研究員兼担

〈教育・学会活動〉
オーストラリア学会会員（2004年12月～2010年12月　オーストラリア学会代表理事，他に『オーストラリア研究』編集委員，副代表理事，監事などを歴任）
三田社会学会会員（2012年7月～2015年6月　三田社会学会代表幹事）
日本社会学会会員（2000年～2002年社会学会英文雑誌IJJS編集委員）
日本国際政治学会会員（2002年～2006年トランスナショナル分科会責任者）
その他，組織学会会員，関東社会学会会員，日本政治学会会員
2004年10月～　日本学術会議連携会員（地域研究基盤整備分科会・多文化共生分科会）日本・豪州政府共催「日豪会議」にオーストラリア学会代表理事として参加（主に文化交流部会の司会・まとめを担当）

〈研究領域〉
社会変動論，国際社会学（人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義），オーストラリア研究（オーストラリア多文化主義，社会変動）

〈担当科目〉
社会学（日吉），社会変動論（三田），現代オーストラリア論（三田）
政治・社会論特殊研究／特殊演習，地域研究特殊研究／特殊演習他（大学院）

〈著作単著〉

1989年 7月　『マルチカルチュラル・オーストラリア――多文化社会オーストラリアの社会変動』成文堂（博士論文の公刊，1990年度政治研究桜田会奨励賞）

1994年 4月　『エスニシティの政治社会学――民族紛争の制度化のために』名古屋大学出版会

2000年 4月　『多文化主義社会の到来』朝日新聞社（朝日選書，2001年度義塾賞）

〈共著・共編著〉

1988年12月　（竹田いさみ・鈴木雄雅他との共著）『概説オーストラリア史』有斐閣（編集／序章，2章，10章，11章執筆）

1996年 3月　（有末賢・霜野壽亮との共編著）『社会学入門』弘文堂（編集／2章，6章執筆）

1998年 3月　（可児弘明・国分良成・鈴木正崇との共編著）『民族で読む中国』朝日新聞社（編集／2章執筆）

2001年 3月　（黒柳米司・広瀬崇子との共著）『東南・南・オセアニア』自由国民社（第3部「オセアニア」執筆）

2002年 2月　「国際政治（特集「国際政治と文化研究」）」（日本国際政治学会）『国際政治』129号（編集／序論執筆）

2003年10月　Editor, “Special Issue on Japanese Society and Ethnicity”, *International Journal of Japanese Sociology*, No. 12,（編集／序論執筆）

2004年 6月　（山本信人との共編著）『海域アジア（現代と東アジアと日本4)』慶應義塾大学出版会（編集／12章執筆）

2005年 3月　（有末賢との共編著）『戦後日本の社会と市民意識（21COECCC多文化世界における市民意識の動態叢書7)』慶應義塾大学出版会（編集／7章執筆「多文化社会化する欧州の極右台頭と多文化社会日本」）

2008年 3月　（塩原良和との共編著）『多文化交差世界の市民意識と政治社会秩序形成（叢書21COECCC多文化世界における市民意識の動態37)』慶應義塾大学出版会（編集／序論執筆）

2008年 4月　（編著）『東アジアの電子ネットワーク戦略（慶應義塾大学東アジア研究所叢書)』慶應義塾大学出版会（編集／序論執筆）

2009年 3月　（石井由香・塩原良和との共著）『アジア系専門職移民の現在――変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会（1部1章執筆）

2013年11月　（吉原和男・編者代表・蘭信三・伊豫谷登士翁・塩原良和・山下晋司・吉原直樹らとの共同編集）2013『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版

〈翻訳本〉

1985年12月　D・ジェンシュ（関根薫との共訳）『オーストラリア政治入門』慶應義塾大学出版会（旧慶應通信）

1987年10月　B・フォード／D・プラウマン編（関根薫との共訳）『オーストラリア労働組合入門』慶應義塾大学出版会（旧慶應通信）

1994年12月　V・J・カラン（関根薫との共訳）『オーストラリア社会問題入門』慶應義塾大学出版会

（旧慶應通信）

1996年12月　S・カースルズ／M・ミラー著（関根薫との共訳）『国際移民の時代』名古屋大学出版会

2002年 8月　D・ヒーター（田中俊郎との共訳）『市民権とは何か』岩波書店

2010年 1月　S・カースルズ／M・ミラー著（関根薫との監訳）『国際移民の時代（第4版）』名古屋大学出版会

2012年10月　D・ヒーター（田中俊郎との共訳）『市民権とは何か』岩波書店（岩波人文書セレクションの1冊として再刊），岩波書店

〈翻訳論文〉

1993年 9月　（B・アンダーソン）「遠隔地ナショナリズムの出現（特集（民族）という名の病い）」『世界』586号，179–190頁

1994年 4月　（マサオ・ミヨシ）「国境なき世界？　植民地主義から多国籍主義への動きと国民国家の衰退」『批評空間』Ⅱ期1号（太田出版），88–112頁

1997年 6月　①（プーコン・キー／ロナルド・スケルドン）「香港中国人のオーストラリアへの移住と定住（10章）」，②（クリスティーン・イングリス／チュン・トン・ウ）「シドニーの香港中国人（11章）」ロナルド・スケルドン編著（可児弘明・森川眞規雄・吉原和男監訳）『香港を離れて』行路社，①283–303頁，②305–330頁

〈論文〉

1978年　「近代日本における工業化の一断面：幕末・明治初期の横須賀造船所」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』18号，75–85頁

1978年　「現代日本における工業化の一断面――高度産業化社会と日本の経営」『Keio business forum』22巻1号，50–63頁

1980年 4月　「幕末・明治前期日本の初期工業化過程に関する若干の考察――横須賀造船所建設を一事例として-1-」『法学研究』53巻4号，504–535頁

1980年 5月　「幕末・明治前期日本の初期工業化過程に関する若干の考察――横須賀造船所建設を一事例として-2-」『法学研究』53巻5号，645–674頁

1980年 9月　「現代組織論の動向と人間仮説の変遷」『法学研究』53巻9号，1199–1228頁

1982年11月　「オーストラリアの歴史的発展と現代の諸問題（1）」『法学研究』55巻11号，1305–1337頁

1982年12月　「オーストラリアの歴史的発展と現代の諸問題（2）」『法学研究』55巻12号，1484–1528頁

1983年 1月　「オーストラリアの歴史的発展と現代の諸問題（3完）」『法学研究』56巻1号，34–61頁

1983年10月　「オーストラリア社会論の課題と方法に関する若干の考察――地域研究としてのオーストラリア社会論」（慶應義塾大学法学部編）『慶應義塾創立一二五年記念論文集（法学部・政治学関係）』慶應通信所収）

1984年 1月　「戦後オーストラリアの大量移民と「白豪政策」の終焉――多元文化社会への歩み（1）」『法学研究』57巻1号，27–57頁

1984年 2月　「戦後オーストラリアの大量移民と「白豪政策」の終焉――多元文化社会への歩み（2完）」『法学研究』57巻2号，29–51頁

1985年 9月 「オーストラリア社会の多元文化化を促す諸要因に関する若干の考察（1)」『法学研究』58巻9号，1–32頁
1985年10月 「オーストラリア社会の多元文化化を促す諸要因に関する若干の考察（2完)」（慶應義塾大学法学研究会）『法学研究』58巻10号，31–55頁
1986年 7月 「マルチカルチュラル・オーストラリアの諸問題」山沢逸平・渡辺昭夫・日豪調査委員会編『日豪関係研究報告〔新しい日豪関係へ向けて〕』7号，54–68頁
1986年12月 「マルチカルチュラル・オーストラリア1986――1986／87年度労働党連邦政府予算とマルチカルチュラリズム」（追手門学院大学オ-ストラリア研究所）『オーストラリア研究紀要』12号，59–94頁
1987年 4月 「シドニー―オーストラリアの都市」藤田弘夫・吉原直樹編著『都市・社会学と人類学からの接近』ミネルヴァ書房，164–187頁
1987年 1月 「人種・エスニック関係研究とコンティンジェンシー・アプローチ――マルチカルチュラル・オーストラリア研究序説」『法学研究』60巻1号，223–267頁
1988年 1月 「脱工業社会のエネルギー・素材・技術・労働―脱工業社会の微視的変動分析」『法学研究』61巻1号，155–188頁
1988年 5月 「日本社会の国際化と人種・エスニック集団関係」『法学研究』61巻5号，293–326頁
1988年11月 「インドシナ難民とオーストラリア」川口浩・渡辺昭夫編著『太平洋国家オーストラリア』東京大学出版会，169–192頁
1989年10月 「オセアニア――オーストラリア社会の国際化と国内統合」有賀貞・宇野重昭他編集『講座国際政治3――現代世界の分離と統合』東京大学出版会，321–339頁
1990年 2月 「太平洋国家オーストラリアの移民政策と経済発展――フィッツジェラルド報告書の検討」山澤逸平・渡辺昭夫編『2000年に向けての日豪関係』（社団法人日本経済研究センター研究報告，第70号），125–150頁
1990年 3月 「オーストラリアの労働問題―生産性向上と組合改革」藤森三男編著『オーストラリアの企業環境と経営』慶應義塾大学地域研究センター（非売品），153–186頁
1991年 6月 “Guest Worker Politics in Japan”, *Migration: European Journal of International Migration and Ethnic Relations*, No. 9 (1991), pp. 49–69.
1991年 6月 “Australia-Japan Economic Relations and Australia in 2001”, *Social Alternatives,* Vol. 10, No. 2, pp. 49–69.
1991年 8月 「オーストラリア―大量移住政策と多文化主義の継続をめぐり百家争鳴」『外交フォーラム（特集・地球規模の難民問題)』4巻8号，81–83頁
1992年 1月 「2001年のオーストラリア――日豪経済関係の視点から」『法学研究』65巻1号，197–223頁
1992年 “Labour Problems in Australia”, in Kyoko Sheridan ed., *The Australian Economy in the Japanese Mirror*, University of Queensland Press, pp. 65–93.
1992年 1月 「エスニシティの社会学（1章)」梶田孝道編著『国際社会学』名古屋大学出版会，28–49頁
1992年 6月 「ホーク連邦労働党政権とオーストラリア政治――1983年から1987年まで」『法学研究』

65巻6号，1–44頁

1992年10月 「2001年のオーストラリア――新国旗および共和国論争の視点から」『法学研究』65巻10号，1–50頁

1992年12月 「人種・民族・エスニシティ」，「民族自決」，「多文化主義」『臨時増刊世界――世界を読むキーワード』（岩波書店）576号

1993年 「社会変動とエスニシティ」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要（30周年記念号）』36号，101–112頁

1993年 4月 「多文化主義の可能性と限界に関する序論的考察」『法学研究』66巻4号，1–40頁

1993年 6月 「社会変動と技術・労働・組織・人間（2部2章）」，「現代の地域主義とエスニシティ（3部2章）」十時厳周編著『現代の社会変動：世界の中の日本社会』慶應通信，87–106頁，279–303頁

1993年 6月 「2001年のオーストラリア：1993年連邦総選挙の視点から」（慶應義塾大学大学院法学研究科編）『法学政治學論究：法律・政治・社会』17号，1–47頁

1994年 3月 「脱工業社会とエスニシティ―「遠隔地ナショナリスト」と新人種差別（情報化社会の中のエスニシティ〈特集〉）」（日本社会学会）『社会学評論』44巻4号，400–415頁

1994年 3月 「オーストラリア連邦形成と首都キャンベラの建設」オーストラリア経済社会事情調査団編『オーストラリア経済社会事情調査報告書～首都機能移転問題を考える』（社団法人）社会経済国民会議，53–178頁

1994年 6月 「アジア・太平洋国家としてのオーストラリア」慶應義塾大学地域研究センター編『アジア・太平洋秩序の構築（地域研究講座）』慶應義塾大学地域研究センター，257–296頁

1994年12月 「2001年のオーストラリア――人種・民族をこえたアジアとの共存を求めて」『法学研究』67巻12号，23–54頁

1995年 3月 「エスニシティ論の展開（1）（6章）」，「エスニシティ論の展開（2）（7章）」，「オーストラリアの人種・民族・エスニック集団関係（8章）」梶田孝道『国際社会学』財団法人放送大学振興会，69–75頁，76–85頁，86–94頁

1995年 9月 「2001年のオーストラリア――グローバル・コミュニケーションと多文化社会オーストラリア」（慶応義塾大学新聞研究所）『慶応義塾大学新聞研究所年報』45号，35–57頁

1995年11月 「現代オーストラリアのナショナリズム――グローバル・コミュニケーション時代のナショナリズム」『法学研究』68巻11号，85–124頁

1995年12月 「多文化社会オーストラリアと中国系オーストラリア人」『オーストラリア研究紀要』21号，97–128頁

1996年 3月 「国民国家と多文化主義（3章）」初瀬龍平編著『エスニシティと多文化主義』同文館出版，41–66頁

1996年 8月 「オーストラリアの多文化主義――文明の衝突から文明の共存へ（〈焦点〉多文化主義の行方）」（日本国際問題研究所）『国際問題』437号，29–41頁

1996年12月 「マルチカルチュラル・オーストラリア1986/87年度労働党連邦政府予算とマルチカルチュラリズム」（追手門学院大学オーストラリア研究所）『オーストラリア研究紀要』12号，59–93頁

1997年 3月　「オーストラリアの経済と政治（特集：大洋州の資源）」『国際資源』267号，2–7頁
1997年10月　「グローバリゼーションとオーストラリア――グローバリゼーションが生んだハンソン論争」『法学研究』70巻10号，1–36頁
1998年 6月　「多文化社会――変貌する伝統的国民アイデンティティ（第3章①）」「労働と社会―伝統的生活様式と脱福祉国家化（第3章②）」武田いさみ・森健編著『オーストラリア入門』東京大学出版会，73–91頁，92–115頁。
1998年 2月　「〈世界の大学街（26）〉未完の街キャンベラ」『三田評論』999号，58–61頁
1998年 8月　「経済功利主義的多文化・多言語主義擁護論の問題点――オーストラリアの事例から学ぶ（特集「多言語主義」のゆくえ――21世記の言語状況への展望）」（大修館書店）『言語』27巻8号，55–61頁
1998年10月　「グローバル・メディアとしてのエスニック・メディア―グローバル・メディアとエスニシティ」『Keio SFC review（特集メディア・コミュニケーション―第3部メディア論と情報社会論）』2巻2号，95–100頁，
1998年10月　「グローバリゼーションと国民国家の文化・社会変動」田中宏・大石裕編『政治・社会理論のフロンティア――慶應義塾大学法学部政治学科開設百年記念論文集』慶應義塾大学出版会，285–329頁
1999年 8月　「グローバル化時代の都市先住民――オーストラリアを事例として」青柳清孝・松山利夫編著『先住民と都市――人類学の新しい地平』青木書店，273–292頁
2000年 9月　「マイノリティとしての移民・外国人労働者」吉川元・加藤普章編著『マイノリティの国際政治学』有信堂，112–128頁
1999年 9月　「グローバル国家オーストラリアの苦悩」『海外事情（特集オーストラリアの戦略）』47巻9号，2–18頁
2000年 1月　（川崎賢一，陸楽，村永Leonard拓也，田村太郎，白水繁彦との共著）「エスニックメディアとしての融合メディア」『情報通信学会誌』17巻3号，31–46頁
2000年　「シンポジウム「有賀喜左衛門と社会学」を聞いて」『三田社会学（特集2有賀喜左衛門と社会学）』5号，93–95頁
2000年 9月　「オーストラリアとはどんな国か」『歴史地理教育（特集オーストラリア入門）』613号，14–21頁
2000年12月　（関根薫との共著）「多文化主義社会オーストラリアと国民の歴史」（追手門学院大学オーストラリア研究所）『オーストラリア研究紀要』26号，1–20頁
2001年　「特集　電子ネットワークと市民社会（序論）」『三田社会学（特集電子ネットワークと市民社会）』6号，1–2頁
2001年　「電子ネットワーク社会の文化戦争 – オーストラリアのケース（経済・情報・文化グローバリゼーションと高度情報化政策）」『三田社会学（特集電子ネットワークと市民社会）』6号，4–13頁
2001年11月　「官と民」『Science of humanity Bensei（特集せめぎあう官と民）』38号，116–121頁
2002年　「文化と国際政治（序論）」『国際政治（国際政治と文化研究）』129号，1–10頁
2002年 4月　「オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」宮島喬・梶田孝道編『マイノリティと社

会構造（国際社会4）』東京大学出版会，209–234頁

2002年　「外国人と治安問題（パネルディスカッション21世紀の社会の安全と警察活動（含質疑・討論要旨））『警察政策』4巻1号，311–320頁

2003年　“An Introductory Note to the Special Issue on Japanese Society and Ethnicity”, *International journal of Japanese sociology*: IJJS, No. 12, pp. 2–5.

2004年 1月　「多文化交錯社会オーストラリアの市民意識の動態」『法学研究』77巻1号，45–75頁

2004年 6月　「海域アジアとオーストラリア――アジアの副保安官を目指すハワード首相？」山本信人・関根政美共編著『海域アジア（現代の東アジアと日本4）』慶應義塾大学出版会，301–338頁

2005年 3月　「多文化社会化する欧州の極右台頭と多文化社会日本」有末賢・関根政美共編著『戦後日本の社会と市民意識（21COECCC多文化世界における市民意識の動態叢書7）』慶應義塾大学出版会，145–174頁

2005年 3月　「戦後の公定多文化主義発展史をめぐる歴史戦争（〈特集〉2004年度全国大会シンポジウム「オーストラリア史を展望する―白人，先住民そしてアジア人の視点から」報告集）『オーストラリア研究』17号，26–34頁

2005年 6月　「多文化国家における移民政策のジレンマ：新自由主義・民主主義・多文化主義」（日本社会学会）『社会学評論（特集・グローバル化と現代社会）』56巻2号，329–346頁

2005年10月　「多文化主義のなかの白人性――オーストラリアの多文化主義論争から」藤川隆男編著『白人とは何か？――ホワイトネス・スタディーズ』刀水書房，208–220頁

2006年 3月　“An Introduction: A Short History of Australian Multiculturalism”, in Yuka Ishii ed., *The Survival Strategies and Networks of Migrant Professionals in the Asia Pacific*. Ritsumeikan Asia Pacific University: Ooita, 2006, pp. 1–24（平成16／17年度科学研究費補助金基盤研究B研究成果報告書）

2006年 7月　「多文化主義社会の到来と人種差別の変容」『自由と正義（特集1人種差別撤廃のために何をすべきか）』57巻7号（通号690号）12–19頁

2006年 6月　「日豪交流の2.2世紀―日本の開国とオーストラリアの開国『遠近（特集多文化を生きる力　オーストラリア）』11巻6・7号，8–13頁

2007年 9月　「社会（第4章①–④）」竹田いさみ・森健・永野隆行編『オーストラリア入門』東京大学出版会，87–122頁

2008年12月　「アジア・太平洋国家化するオーストラリアのなかのラッド政権」慶應義塾大学法学研究会編『慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集地域研究』

2008年 3月　“The Demise of Australian Multiculturalism?”, in Yuka Ishii ed.,*The Survival Strategies and Networks of Migrant Professionals in the Asia Pacific*. Ritsumeikan Asia Pacific University: Ooita, 2008, pp. 1–14（平成18／19年度科学研究費補助金基盤研究B　研究成果報告書）

2008年12月　「多文化共生のカギは「競生」に」『公明（特集次の日本を考える）』36号，8–13頁

2009年10月　「多文化社会オーストラリアのシティズンシップ・テスト」『学術の動向』14巻10号，22–35頁

2009年 3月 「オーストラリアにおける多文化主義と移民政策の変容：オーストラリア多文化主義の歴史的発展とその変容（1部1章）」石井由香・関根政美・塩原良和共著『アジア系専門職移民の現在――変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会，21–68頁

2009年 5月 「ラッド政権の政策。アジア・太平洋国家オーストラリアのラッド政権」国立国会図書館調査及び立法考査局編『オーストラリア・ラッド政権の1年：総合調査報告書』国立国会図書館

2010年 2月 「白豪主義終焉からシティズンシップ・テスト導入まで―多文化社会オーストラリアのガバナンス」『法学研究』83巻2号，1–38頁，

2011年 6月 「ハワード・シティズンシップ・テストからラッド・シティズンシップ・テストへ―多文化社会オーストラリアのガバナンス」『法学研究』84巻6号，31–76頁

2012年 5月 「ポイント制と永住許可：オーストラリアの場合（特集移民の「選別」とポイント制）」『移民政策研究』4号，14–27頁

2013年 7月 「現代オセアニア政治・社会論（序説）」（生田正輝先生追悼論文集）『法学研究』86巻7号，1–37頁

2013年 3月 「（26章）アジアのなかのオーストラリア：アジア・太平洋の白豪主義国家から多文化主義国家へ」松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのか――記憶・権力・価値――』ミネルヴァ書房所収　592–623頁

2013年 3月 「（第1章）多文化社会の将来に向けて――ノルウェー事件と日本」吉原和男編著『現代における人の国際移動――アジアの中の日本』慶應義塾大学出版会

2013年 3月 「私の研究履歴――多文化主義と30年」滝沢三郎・東洋英和学院大学大学院国際協力科編『私の勉強法・研究法――秘訣を公開します』東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科（研究成果出版），34–59頁

2014年 8月 「先進諸国の地域研究：オーストラリア研究の視点から（特集地域研究の軌跡と展望）」『三田評論』1182号，27–31頁。

2014年10月 「オセアニア（オーストラリア）の国際移民と多文化共生（特集地域研究の「粋」を味わう：現地から中央アジア，オセアニア，EU，東南アジアを読む）」『学術の動向』19巻8号，59–63頁，

2015年 2月 （池田真朗，大森正仁，山本爲三郎，岩谷十郎，山本信人，田上雅徳との共著）「『法学政治学論究』100号記念座談会：回顧から創造へ」『法学政治学論究』105号，99–122頁

2016年 2月 「オーストラリアの外国人労働者と多文化主義」有田伸・山本かほり・西原和久編『国際移動と移民政策――日韓の事例と多文化主義再考』東信堂，59–69頁。

〈書評・紹介〉

1984年 9月 「（書評）James Jupp (1983) Party Politics: Australia 1966–1981」『法学研究』57巻9号，132–140頁

1984年10月 「（書評）Robert Birrell, Doug Hill and John Stanley, eds. (1982) Quarry Australia?―Social and environmental perspectives on managing the nation's resources」『法学研究』

57巻10号，135–142頁

1989年 1月　「（書評）ジョン・レックス著（鶴木真・桜内篤子訳）『人種問題の社会学』」『法学研究』62巻1号，126–134頁

1993年　「（書評）竹田いさみ著『移民・難民・援助の政治学』」『国際政治』103号，176–179頁

1994年 8月　「（書評）Stephen Castles and Mark J. Miller (1993), The Age of Migration—International Population Movement in the Modern World」『法学研究』678号，149–155頁

2000年 6月　「（書評）平野健一郎著『国際文化論』」『国際問題』483号，75–77頁

2002年 3月　「（Book Review）国際政治とエスニシティ—吉原和男／クネヒト・ペトロ編『アジア移民のエスニシティと宗教』」『東方』253号，22–25頁

2003年　「（書評）華人の中国アイデンティティ離れを考察—田中恭子著『国家と移民—東南アジア華人世界の変容』名古屋大学出版会，2002年」『レヴァイアサン』33号，169–172頁

2004年 3月　「（書評）W. L. ワラス著（水上徹男・渡戸一郎訳）『エスニシティ・人種・ナショナリティのゆくえ』『社会学評論』54巻4号，452–454頁

2006年 2月　「（書評）大庭三枝著『アジア太平洋地域形成への道程——境界国家日豪のアイデンティティ模索と地域主義』」『国際政治』144号，166–170頁

2010年　「（書評）松井清著『北アイルランドのプロテスタント—歴史・紛争・アイデンティティ』」『三田社会学』15号，110–114頁，

2013年 3月　「（紹介と批評）ロビン・コーエン著（駒井洋訳）『新版グローバル・ディアスポラ』」『法学研究』86巻3号，79–87頁

〈各種講演会〉

2006年 7月15日　「オーストラリア概略」豪日交流基金『豪日交流基金教員研修担当者プログラム事前説明会』午前10時00分～12時00分。オーストラリア大使館地下ホール

2006年10月27日（金）「多文化共生を考える——オーストラリアの現場から」国立民族学博物館講演会『多文化共生を考える』（第1部）日経ホール18時10分–20時10分

2007年 7月21日　「（講演）オーストラリアに学ぶ多文化共生」鳥取県国際交流財団主催『とっとり国際塾第2回公開講座』午後1時00分，倉吉未来中心セミナール—

2007年12月16日（日）「移民を受入れる国——オーストラリアの現在と未来」仙台国際交流協会『多文化共生公開セミナー』午後1時30分，仙台国際センター1階，交流コーナー研修室

2008年 5月31日　「オーストラリアの多文化共生政策」（財）自治体国際化協会『平成10年度地域国際化協会連絡協議会総会講演』午前10時30分～11時30分，都市センターホテル（605会議室）」

2008年 8月17日　「（基調講義Ⅰ）多文化主義とその変容—共生から競生へ—」（基調講義Ⅰ国連大学グローバルセミナー，第8回北海道セッション『グローバル時代の文化と言語』，北海道教育大学札幌校，2008年6月17–9日，基調講義は17日午後実施）

2009月 9月14日　「多文化共生の先進国オーストラリアから学ぶ」（財）自治体国際化協会市民国際プラザ特別企画展講演会『なぜ今，多文化共生か？』18時30分–20時30分（財）自治

体国際化協会　大会議室」

2010年10月23日　「（講演）オーストラリアの多文化共生の軌跡」岡山国際交流協会　岡山国際シンポジウム，第1部10：00–12：00，岡山国際交流センター2階　国際会議場

2006年 5月21・28日　「（講演）オーストラリアについて（全2回）」①多文化主義国家オーストラリアへの軌跡」「②アジア・太平洋国家オーストラリアへの軌跡――日豪交流2・2世紀」川崎市国際交流協会国際理解講座『ワールドカップの対戦国と開催国について知ろう』川崎市国際交流センター会議室

2011年 7月23日　「（講演会）移民社会多文化オーストラリアから学ぶ共生のコツ」杉並区交流協会『講演会：外国文化を知ろう＆インターナショナルスクール見学』9時30分～11時時10分，あんさんぶる荻窪（4階）

2015年 7月 7日　「オーストラリアの魅力～オーストラリアってどんなところ？」練馬区海外友好協会『練馬区海外友好都市紹介講座』午後6時00分～20時30分練馬区役所（最上階ホール）

2013年 8月 6日　「（講義）オーストラリアの多文化主義とマイノリティ」特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター（KFC）主催『多文化共生を考える研修会2013』国際健康開発センター交流ホール（神戸市中央区）午後1時30分～3時00分」

2015年 7月29日　「オーストラリアと35年――――オーストラリアの過去・現在・未来」関西日豪協会主催『西日豪協会定期総会講演会』午後5時00～6時00分，大阪ホテルオークラ2階ホール

川崎市立橘高校オーストラリア研修旅行のための研修授業「①オーストラリアの歴史」「②日豪関係の歴史」2004年から，年2回（90分授業）を提供

2006年日豪協力友好条約30年記念豪日交流基金・国際交流センター共催『豪州講座』（全10回）のコーディネーターを担当。

＊最近10年間のみ掲載

矢野　久（やの ひさし）

〈学歴〉

1973年 3月　慶應義塾大学経済学部卒業

1976年 3月　同　大学院経済学研究科修士課程終了　修士号（経済学）取得

1977年 4月　同　大学院経済学研究科博士課程入学

1978年10月　ボーフム・ルール大学社会科学部（社会経済史）博士課程入学

1985年 3月　慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程　満期退学

〈学位〉

1983年6月　ボーフム・ルール大学社会科学博士（Dr. rer soc）取得